

第4章 「夢・未来」スポーツ拠点の整備

<目標>

青少年の夢やあこがれとなり、府民の誰もが親しみの持てるスポーツ施設の整備を進めます。

本府のスポーツ施設は1988（昭和63）年の「京都国体」以降、新たな拠点整備が行われておらず、老朽化が進行し、厳しい状況にあったことから、これまで府内になかった専用球技場新設や府立山城総合運動公園、府立丹波自然運動公園のリニューアル整備等に取り組んでおり、今後とも、これらの取組を進めます。

具体的目標

- 1 青少年の夢やあこがれとなり、府民が誇れる専用球技場「京都府立京都スタジアム」の整備
- 2 子どもの発達、健全育成をはじめ、冬季スポーツの競技力の向上や愛好者の裾野拡大につながる「京都アイスアリーナ」（仮称）の整備（変更）
- 3 子どもから高齢者まで、障害の有無や程度に関係なく、誰もが使いやすく、競技スポーツと生涯スポーツ双方の府民ニーズを踏まえた府立運動公園等の整備（充実）

I 青少年の夢やあこがれとなる環境づくり

臨場感あふれる試合の観戦を通して、高度な技やすばらしいプレイを身近に体感するとともに、観るだけでなくその場所で競技をしたいとあこがれを持てるようなスポーツ施設を整備します。

1 子どもたちの夢とあこがれの舞台となり、府民が誇りを持つことができる施設

(1) 国際的、全国的な試合を身近に体感するとともに、競技者の最高の舞台として、あこがれとなるような専用球技場（「京都府立京都スタジアム」）を整備します。

(2) 身近に「するスポーツ」として幅広い府民に機会を提供するとともに、国際的・全国的な競技水準の維持向上を図る通年型の「京都アイスアリーナ」（仮称）を整備します。

2 新しいスポーツニーズに対応することができる施設

東京オリンピックの正式競技となったスポーツクライミングやカーリングなどのニュースポーツを府民が気軽に楽しめる施設を「京都府立京都スタジアム」や「京都アイスアリーナ」（仮称）に併設します。

3 手軽にスポーツを楽しめるとともに、競技スポーツの拠点となる施設

誰もが手軽にスポーツを楽しめるとともに、全国レベルの大会が開催できるよう府立山城総合運動公園、府立丹波自然運動公園を整備します。

II スポーツに親しみやすい環境づくり

新しいスポーツニーズに対応したスポーツ施設を充実するため、府立運動公園等の整備を行います。

1 子ども、高齢者、女性、障害者等誰にでも優しい施設

～利用者の視点に立って、誰もが使いやすく、環境先進地・京都にふさわしい施設整備～

バリアフリー、エコロジーに配慮し、誰もが安全で安心して快適かつ気軽に利用でき、地域のコミュニケーションの場となるような施設を目指します。

2 「する」「みる」「ささえる」それぞれの立場に立った施設

～「する」「みる」「ささえる」人々の、一体感が醸成できるような施設整備～

それぞれの立場の人が集まる拠点となり、互いに夢と希望、感動や勇気を共有し、絆を深めることができる施設を目指します。

3 安全・安心な施設

(1) 老朽化等への対応

スポーツ施設や用具・器具の安全性・機能性・耐震性等の現状情報の収集・整理に努め、必要に応じた安全対策を講じるなど、施設や用具・器具の更新を進めます。また、インフラ長寿命化計画に基づき、施設の維持管理・更新等を着実に進めます。

(2) 非常時や災害時の避難や対応等、防災拠点となる施設整備

府民が安全・安心にスポーツを行えるとともに、非常時や災害時の安全・安心な防災拠点となる施設整備を進めます。

4 新しいスポーツニーズに対応した施設

(1) 府民ニーズを踏まえた府立のスポーツ施設の総合的なリニューアル

誰もが快適に利用できるよう、クラブハウスの新設やグラウンドの人工芝生化等の整備を進めます。

(2) 現在府内にないスポーツ施設の整備

府民ニーズに対応する新たなスポーツ施設について、市町村や競技団体、企業等と連携して整備を進めます。

(3) スポーツに限らず、府民が足を運びたいくなるような施設整備

スポーツだけでなく、イベントの開催や普段から足を運び、賑わいが生まれるような、多機能型・複合型のスポーツ施設整備を目指します。

5 京都を元気にするスポーツ施設

(1) 広域的な役割を持つ市町村スポーツ施設整備への支援

市町村が広域的・基幹的、準広域的・準基幹的スポーツ施設を整備する際に支援を行い、幅広いスポーツ施設の整備を行います。

(2) スポーツやスポーツ施設を拠点としたスポーツ界における好循環の創出等、地域活性化に貢献し、京都を元気にするような整備

スポーツやスポーツ施設を中心に、アスリートや競技団体、地域住民や府民、行政、学校、企業等が互いに連携をして好循環を生み出し、地域や京都が元気になるような施設整備や環境づくりを目指します。

(3) ネーミングライツ事業の推進（新規項目）

島津アリーナ京都（京都府立体育館）の導入事例を踏まえ、スポーツ施設の管理運営に係る長期安定化や公共的機能の維持向上に資する財源確保とともに事業者とのパートナーシップによる施設の魅力向上の取り組みを進め、生み出された価値を府民に還元します。